

令和 6 年度全国学力・学習状況調査

調査の結果及び今後の取組

熊本県教育委員会

1 調査の結果について（p 2～24）

（1） 調査の概要（p 3～4）

（2） 教科に関する調査の結果（p 5～9）

（3） 質問調査の結果（p 10～23）

（4） 成果と課題（p 24）

2 今後の取組について（p 25～28）

参考資料（p 29～34）

1 調査の結果について

1－（１） 調査の概要

■ 調査実施日 令和６年（２０２４年）４月１８日（木）

■ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 調査の対象

- ・ 小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年、特別支援学校小学部第６学年の全児童
- ・ 中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年、特別支援学校中学部第３学年の全生徒

■ 調査の内容

- ・ 教科に関する調査（小学校：国語・算数、中学校：国語・数学）
- ・ 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

1－（１） 調査の概要

各教科の出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※各教科の結果分析で、

（知）や「知識」と記しているものは、「知識・技能」で、
（思）や「思考」と記しているものは、「思考・判断・表現」で、
評価の観点を示しています。

1－（２） 教科に関する調査の結果（本県の概要）

本県の概要

- ・ 小学校では、**国語は全国平均とほぼ同じ状況であり、算数は全国平均を下回っている。**
- ・ 中学校では、**国語と数学は全国平均を下回っている。**

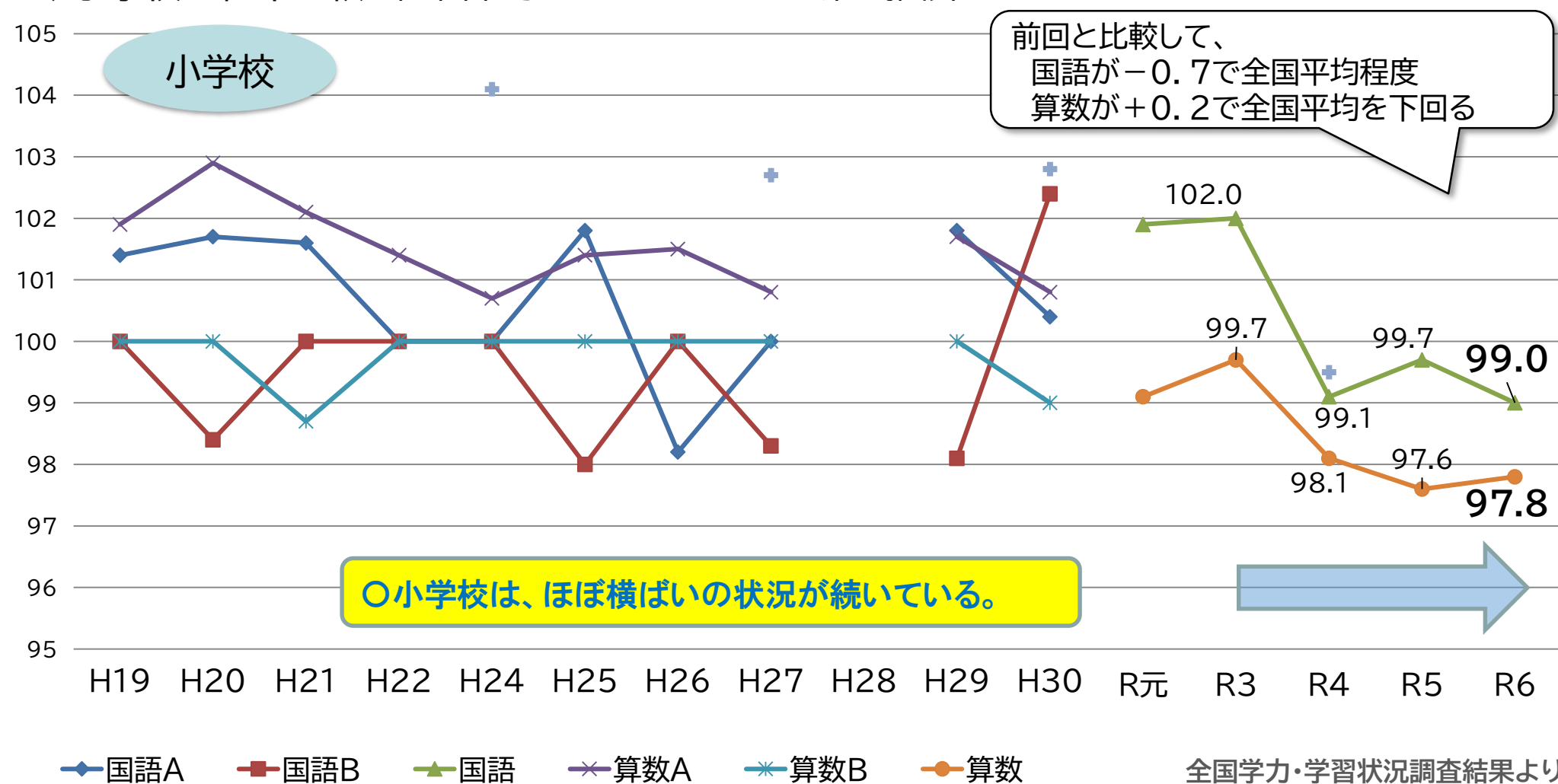
	【小学校6年生】	
	国語	算数
熊本県	67%	62%
全国	67. 7%	63. 4%

	【中学校3年生】	
	国語	数学
熊本県	57%	50%
全国	58. 1%	52. 5%

※表中の数値は平均正答率（％）、県の値は国から整数値で公表

1－（２） 教科に関する調査の結果（小学校の結果の推移 H19～）

◇小学校の経年比較（全国平均を100としたときの県の推移）

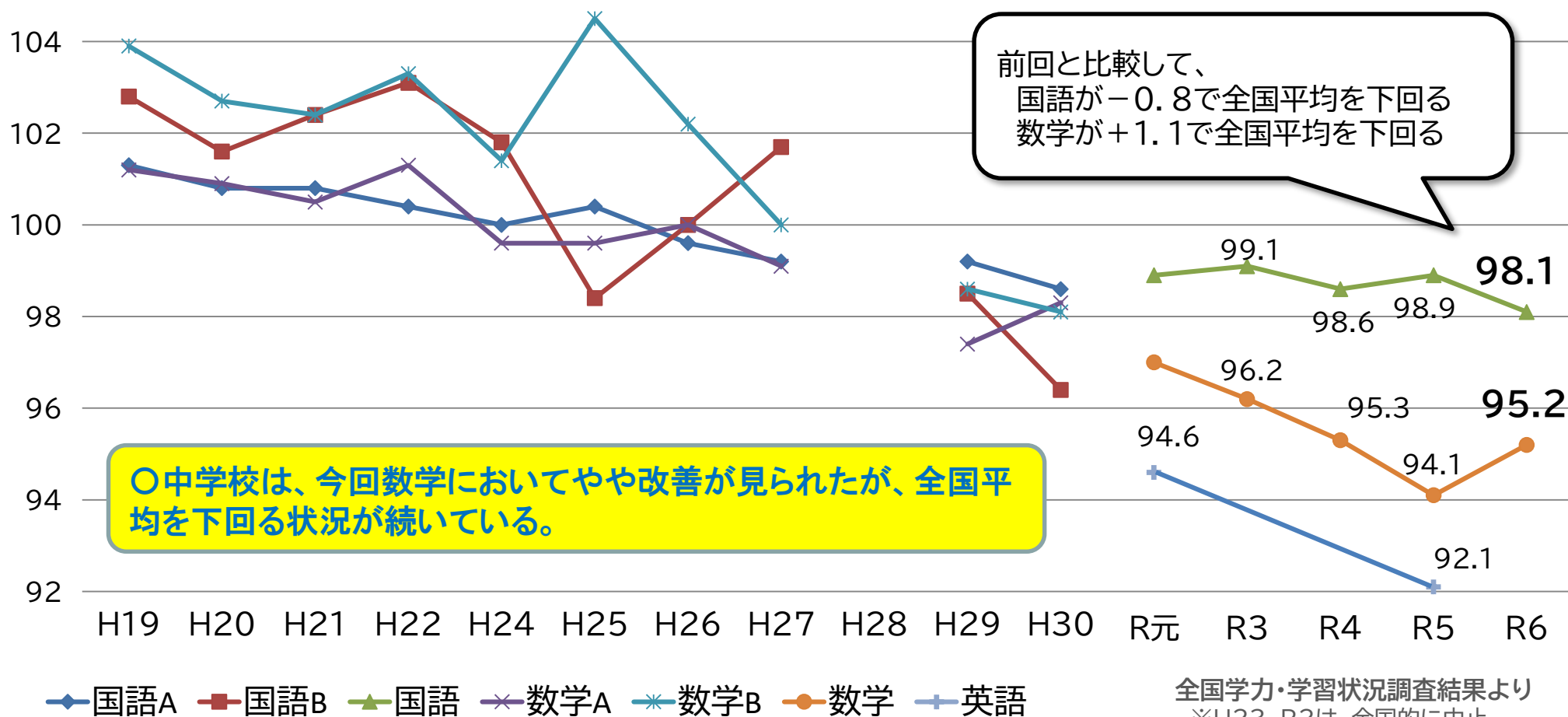


全国学力・学習状況調査結果より
※H23、R2は、全国的に中止
※理科については省略

1－（２） 教科に関する調査の結果（中学校の結果の推移 H19～）

◇中学校の経年比較（全国平均を100としたときの県の推移）

中学校



全国学力・学習状況調査結果より
※H23、R2は、全国的に中止
※理科については省略

1 - (2) 教科に関する調査の結果（国語の小問ごとの状況）



◇各教科における小問ごとの状況(国語)

- 国語では、全国平均を1ポイントより上回った問題は、小中ともに2問であった。
- 全国平均を1ポイントより下回った問題は、小学校で5問(「思考・判断・表現」で4問,「知識」で1問),中学校で8問(「思考・判断・表現」,「知識」それぞれ4問ずつ)であった。

・国語では,「思考・判断・表現」の問題で,全国平均を下回った問題が多い。

課題があった主な問題

【小学校】

- ・目的や意図に応じて,集めた材料を分類したり関係付けたりして,伝え合う内容を検討すること(1三)【思考】県正答率61.3(-2.5)
- ・登場人物の相互関係や心情などについて,描写を基に捉えること(3二(1))【思考】県正答率64.5(-2.4)

【中学校】

- ・資料を用いて,自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと(1二)【思考】県正答率65.4(-3.1)
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約すること(2四)【思考】県正答率39.6(-3.0)

1 - (2) 教科に関する調査の結果 (算数・数学の小問ごとの状況)

問題の観点 正答率 (%)				問題の観点 正答率 (%)			
問題番号	知識・技能	思考・判断・表現	応用	問題番号	知識・技能	思考・判断・表現	応用
【小学校】				【中学校】			
算数				数学			
1 (1)	○	60.3	62.1	1	○	29.1	34.9
1 (2)	○	57.2	55.9	2	○	49.6	52.1
2 (1)	○	53.4	56.9	3	○	65.2	65.3
2 (2)	○	55.2	59.1	4	○	55.6	61.3
3 (1)	○	55.0	55.5	5	○	70.2	73.1
3 (2)	○	70.6	71.3	6 (1)	○	59.2	59.2
★ 4 (1)	○	53.6	56.9	6 (2)	○	28.4	35.9
4 (2)	○	71.9	72.0	6 (3)	○	59.6	61.6
5 (1)	○	73.5	70.1	7 (1)	○	68.2	74.3
5 (2)	○	66.5	70.0	★ 7 (2)	○	23.1	25.9
6 (1)	○	50.9	51.6	7 (3)	○	47.7	48.5
★ 6 (2)	○	53.5	54.1	8 (1)	○	52.5	53.4
6 (3)	○	50.5	50.5	★ 8 (2)	○	15.2	17.1
6 (4)	○	72.4	73.3	8 (3)	○	75.9	76.9
★ 7 (1)	○	42.1	44.1	9 (1)	○	20.1	21.6
7 (2)	○	45.4	45.3	9 (2)	○	22.9	25.7

★ 国が課題としている問題

□ 全国平均より県平均が1ポイントより上回った小問
□ 全国平均より県平均が1ポイントより下回った小問

◇各教科における小問ごとの状況(算数・数学)

- 算数・数学では、全国平均を1ポイントより上回った問題は、小中ともに1問であった。
- 全国平均を1ポイントより下回っている問題は、小学校で7問(「思考・判断・表現」で5問,「知識」で2問),中学校で11問(「思考・判断・表現」で5問,「知識」で6問)であった。

・算数・数学では、「知識・技能」,「思考・判断・表現」の問題ともに、全国平均を下回った問題が多い。

課題があった主な問題

【小学校】

- ・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと (1(1))【知識】県正答率60.3(-1.8)
- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できること(4(2))【思考】県正答率66.5(-3.5)

【中学校】

- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること (6(2))【思考】県正答率28.4(-7.5)
- ・与えられたデータから最頻値を求めること (7(1))【知識】県正答率68.2(-6.1)

1－（３） 質問調査の結果（本県の特徴的な項目）

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
児童生徒	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか （「ほぼ毎日」＋「週３回以上」の割合）	63.4	59.5	+3.9	67.2	64.4	+2.8
	学校に行くのは楽しいと思いますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	86.7	84.8	+1.9	86.2	83.8	+2.4
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	89.7	89.9	－0.2	91.0	90.4	+0.6
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか （「発表していた」＋「どちらかといえば、発表していた」の割合）	60.6	67.6	－7.0	53.6	64.8	－11.2
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	79.0	81.9	－2.9	74.8	80.3	－5.5
	国語の授業の内容はよく分かりますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	87.1	86.3	+0.8	81.6	82.7	－1.1
	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか （「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」の割合）	81.5	82.1	－0.6	70.3	75.7	－5.4
学校	近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか （「よく行った」＋「どちらかといえば、行った」の割合）	76.8	64.0	+12.8	81.6	69.0	+12.6
	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（「週に１回程度、または、それ以上行った」＋「月に数回程度行った」の割合）	85.9	78.9	+7.0	77.3	64.7	+12.6

※国の報告書をもとに、第３期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

単位（％）

1－（3） 質問調査の結果（本県の特徴的な項目）

■ 全国平均を上回っていた項目

- ・「授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、週3回以上使っている」、「学校に行くのは楽しい」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（中学校のみ）」等と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回っている。
- ・「近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行った」、「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った」等と回答した学校の割合が、全国平均を上回っている。

児童生徒が、「先生は、よいところを認めてくれている」「学校に行くのは楽しい」と感じることから、教職員が、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」本県の教育行動指標を踏まえて、児童生徒に丁寧に関わっていると考えられる。

■ 全国平均を下回っていた項目

- ・「授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」等と回答した児童生徒の割合が、全国平均を下回っている。

児童生徒が、自分の考えを工夫して発表する機会や、自分で考え自分から取り組む機会を設定するなどの授業改善の取組を進めていく必要がある。

1－（3） 質問調査の結果（参考指標に関すること）

昨年度実施した熊本県学力・学習状況調査により、各学校に示した参考指標（令和6年2月通知）

【目標】 本県の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障する

【参考指標1】児童生徒質問紙
授業では、課題の解決に向けて、
自分で考え、自分から取り組んで
いましたか。

【参考指標2】児童生徒質問紙
家で自分で計画を立てて勉強をし
ていますか。

【参考指標3】児童生徒質問紙
授業の内容はよく分かりますか。
（各教科において）



各教科の
平均正答率

状況の向上を目指す

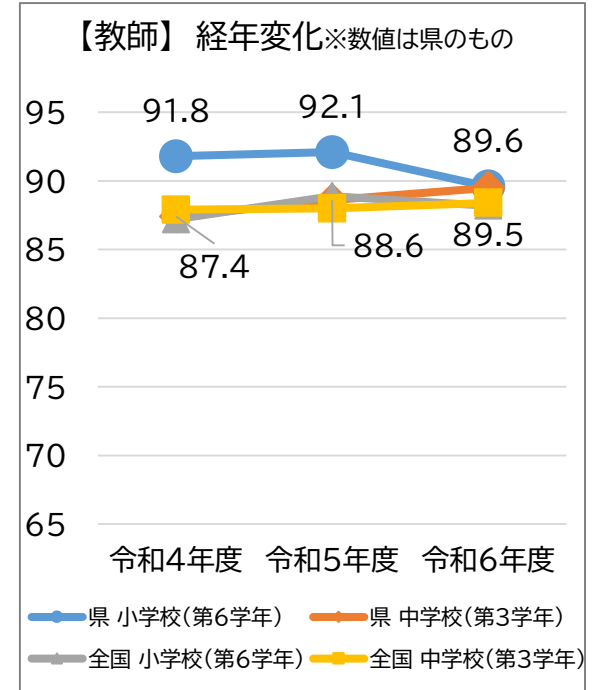
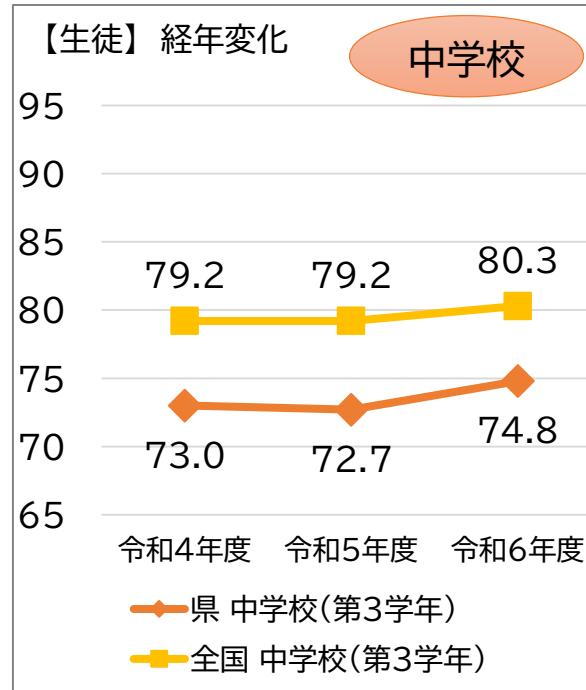
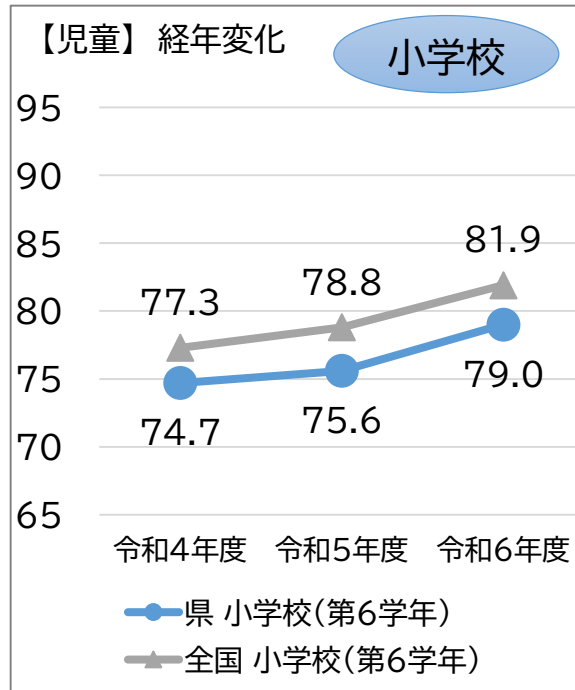
1－（3） 質問調査の結果（参考指標1に関係するもの①）

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

【参考指標1】

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」の割合



○小中ともに、全国値を下回っているが、前回よりも向上している。

○小学校で前回より下降、中学校で向上している。

・児童生徒の割合は向上しているものの、依然として児童生徒の認識と教員の捉えに差がある。

1 - (3) 質問調査の結果（参考指標1に関するもの②）

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

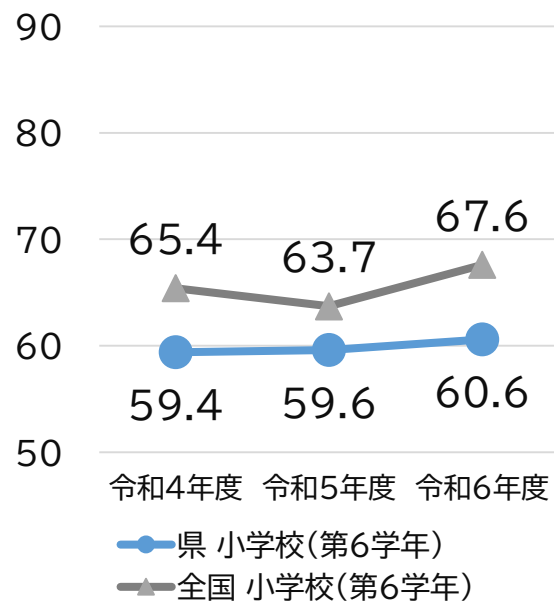
「発表していた」+「どちらかといえば、発表していた」の割合

調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。

「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」の割合

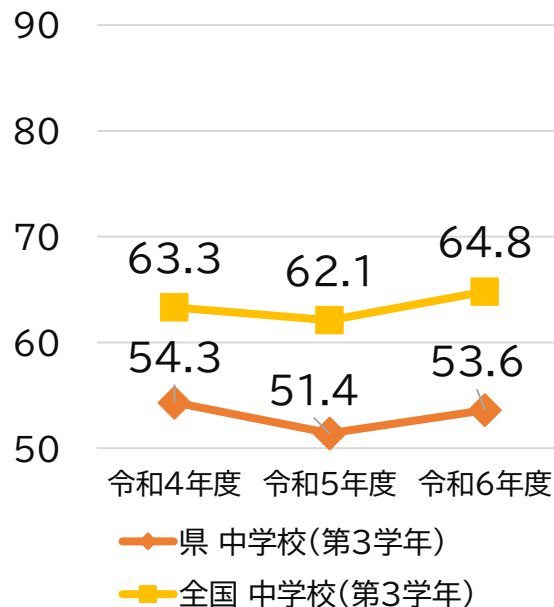
小学校

【児童】経年変化

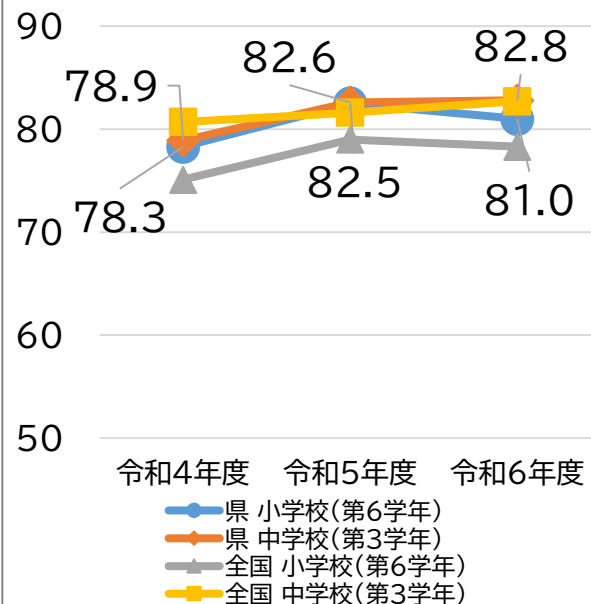


中学校

【生徒】経年変化



【教師】経年変化※数値は県のもの



○小中ともに、全国値を下回っているが、前回よりも向上している。

○小学校で前回より下降、中学校で向上している。

・児童生徒の割合は向上しているものの、依然として児童生徒の認識と教員の捉えに差がある。

1－（3） 質問調査の結果（参考指標2に関するもの）

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む。）

今年度は、質問項目にありませんでした。

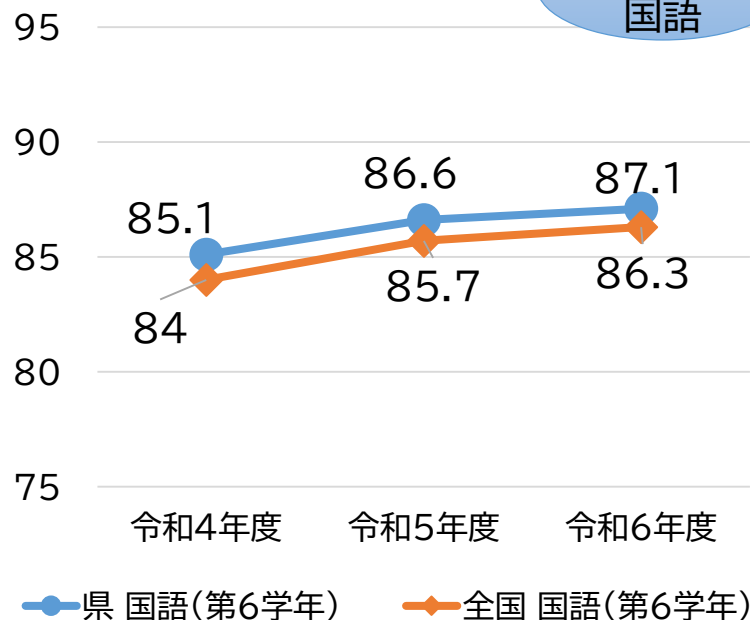
1－(3) 質問調査の結果（参考指標3に関するもの①）

授業の内容はよく分かりますか。（各教科における）

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

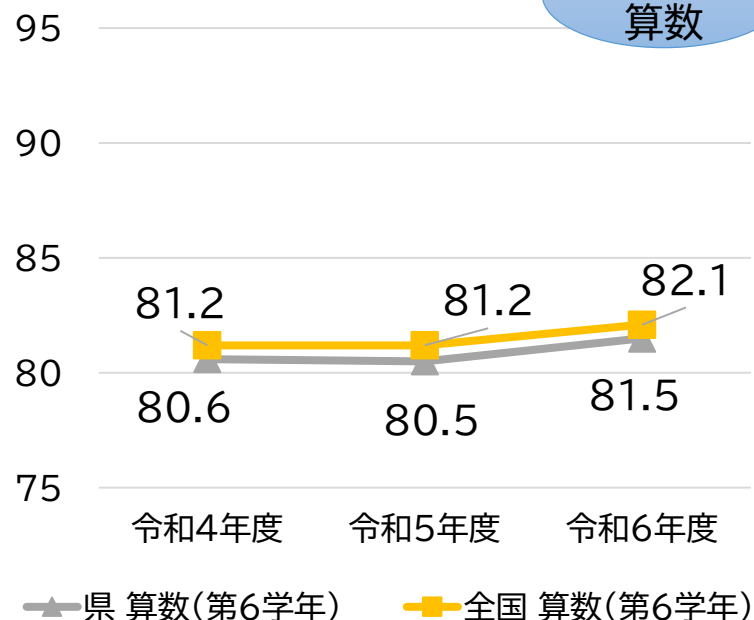
【児童】 経年変化

小学校
国語



【児童】 経年変化

小学校
算数



○小学校国語、小学校算数ともに、全国と同じ状況であり、前回より向上している。

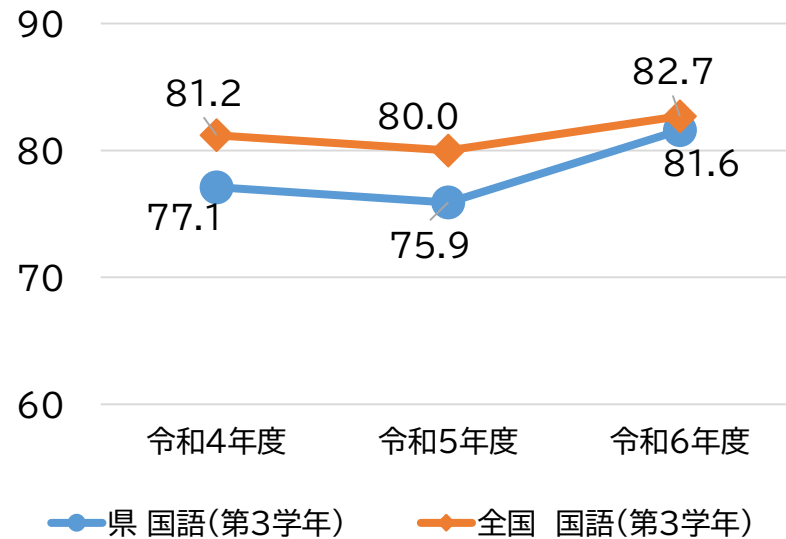
1－（3） 質問調査の結果（参考指標3に関するもの②）

授業の内容はよく分かりますか。（各教科における）

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

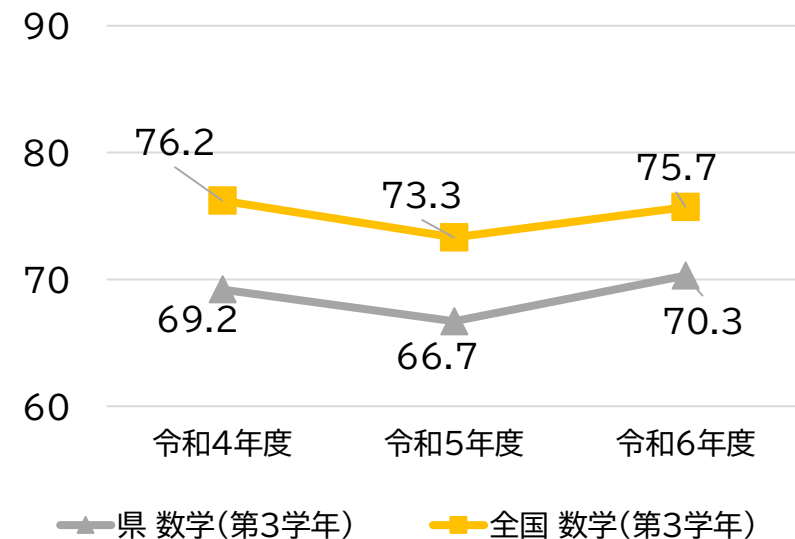
【生徒】 経年変化

中学校
国語



【生徒】 経年変化

中学校
数学



○中学校は、国語、数学ともに全国平均よりも下回っている。国語、数学ともに前回より向上している。

1－(3) 質問調査の結果（参考指標3に関するもの③）

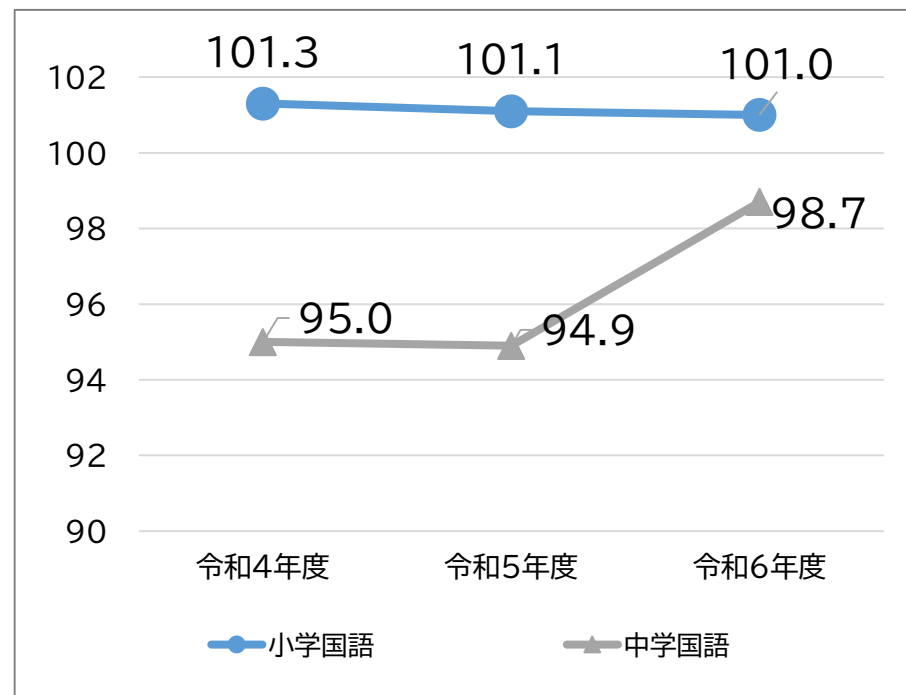
〔児童生徒の理解度と平均正答率との相関〕

国語

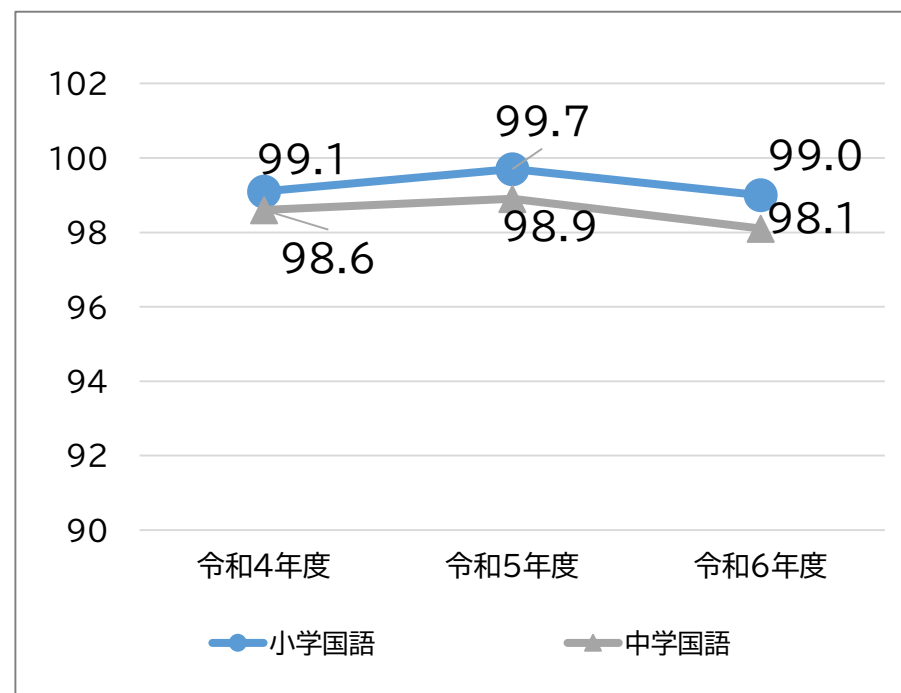
授業の内容はよく分かりますか。
(全国平均を100としたときの県の肯定率の推移)

全国平均を100としたときの県(平均正答率)の推移

経年変化【質問調査】



経年変化【学力調査】



○国語においては、小中ともに、「よく分かる」と回答する児童生徒の割合は、前回より向上している。

○全国を100としたときの平均正答率は、前回より低下している。

・国語では、小学校は、理解度と平均正答率は同様の傾向が見られたが、中学校では見られなかった。

1－（3） 質問調査の結果（参考指標3に関するもの④）

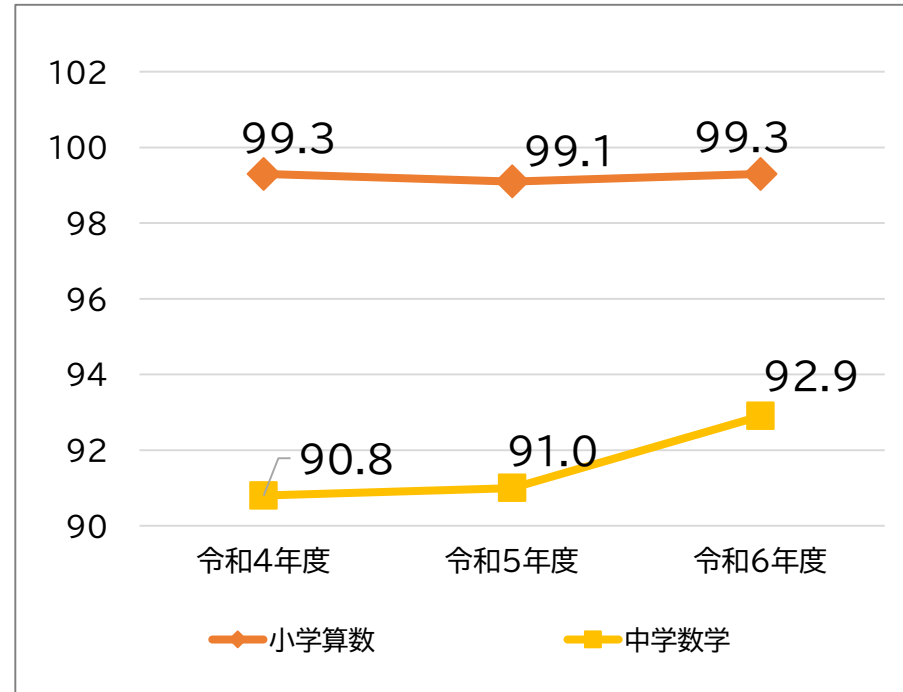
〔児童生徒の理解度と平均正答率との相関〕

算数・数学

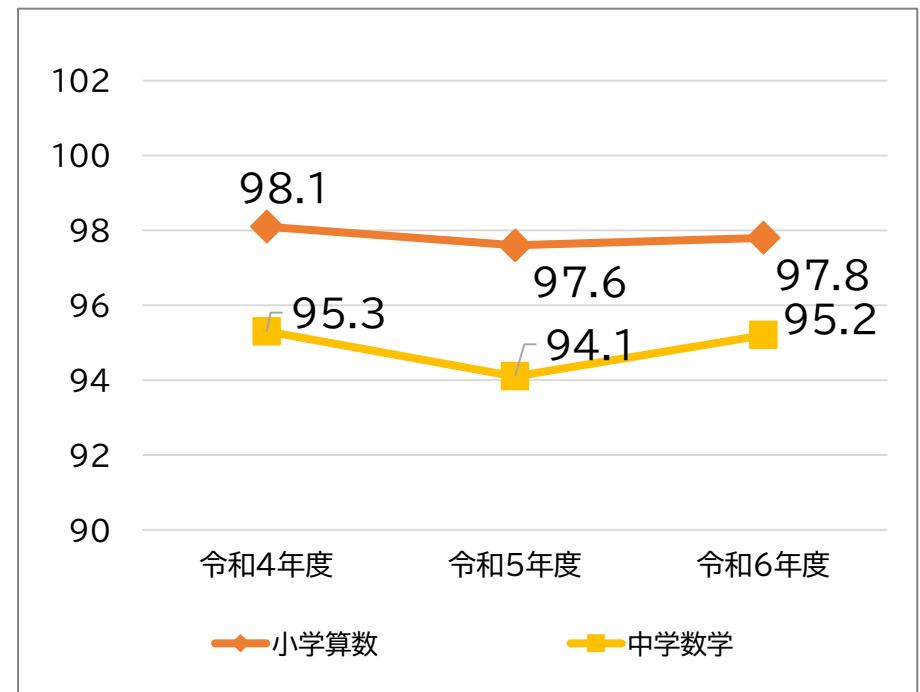
授業の内容はよく分かりますか。
（全国平均を100としたときの県の肯定率の推移）

全国平均を100としたときの県（平均正答率）の推移

経年変化【質問調査】



経年変化【学力調査】



○算数・数学においては、小中ともに、「よく分かる」と回答する児童生徒の割合が、前回より向上している。
○全国を100としたときの平均正答率も、前回より向上している。

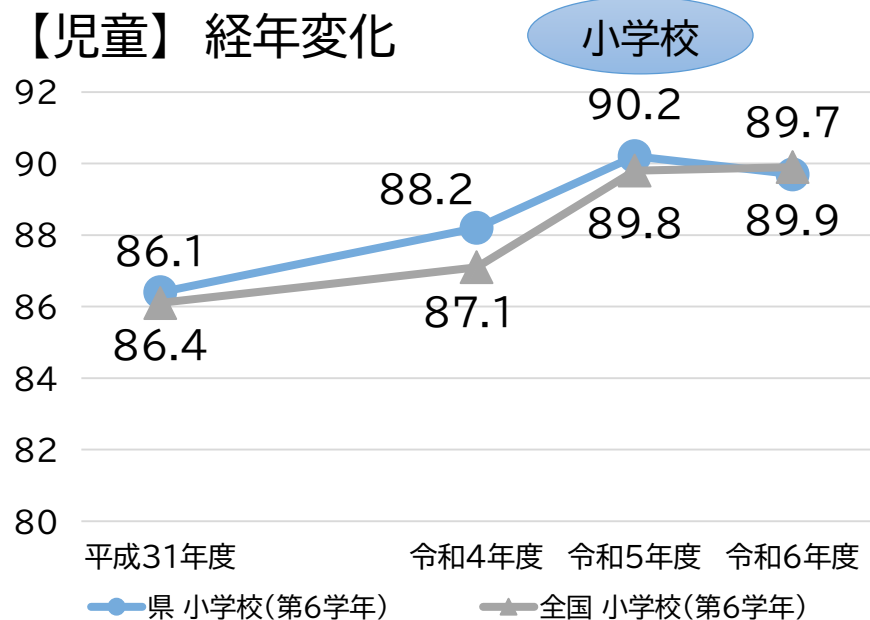
・算数・数学では、児童生徒の理解度と平均正答率は同様の傾向にある。

1－（3） 質問調査の結果（教育行動指標に関するもの①）

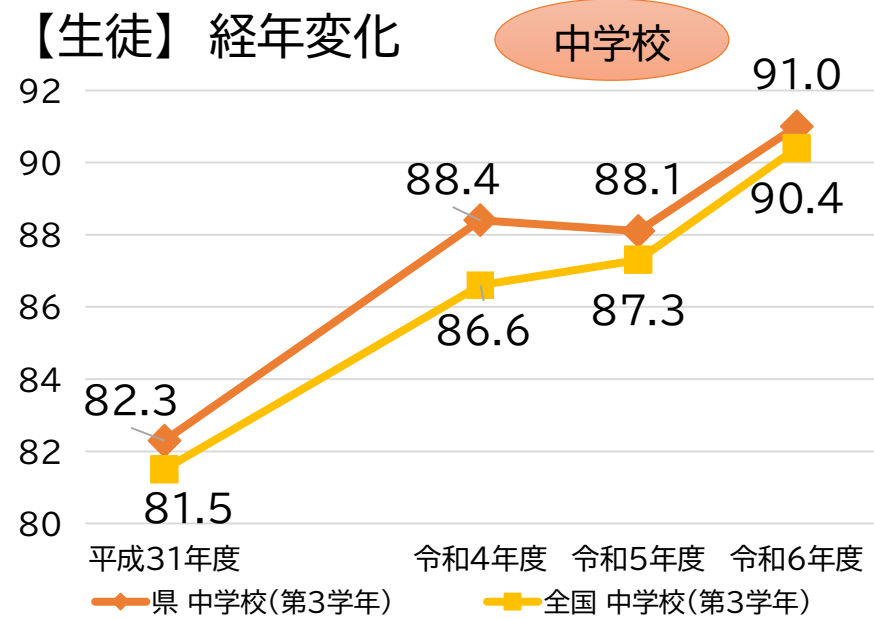
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

※R3年度は調査なし

【児童】 経年変化



【生徒】 経年変化



○小中ともに、9割近くの高い数値を示している。

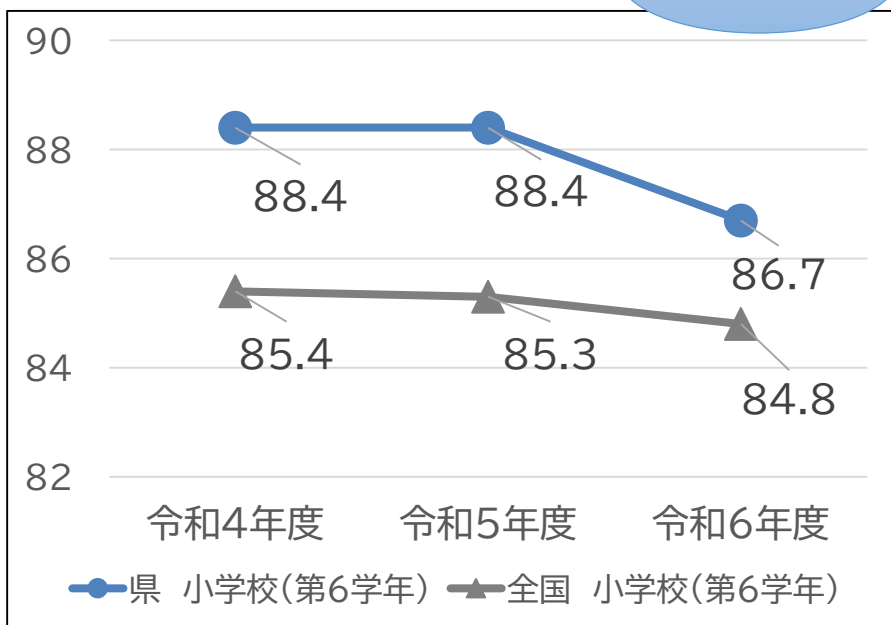
・教職員一人一人が、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」県の教育行動指標を踏まえて、児童生徒と関わっていると考えられる。

1－（3） 質問調査の結果（教育行動指標に関するもの②）

学校に行くのは楽しいと思いますか。「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

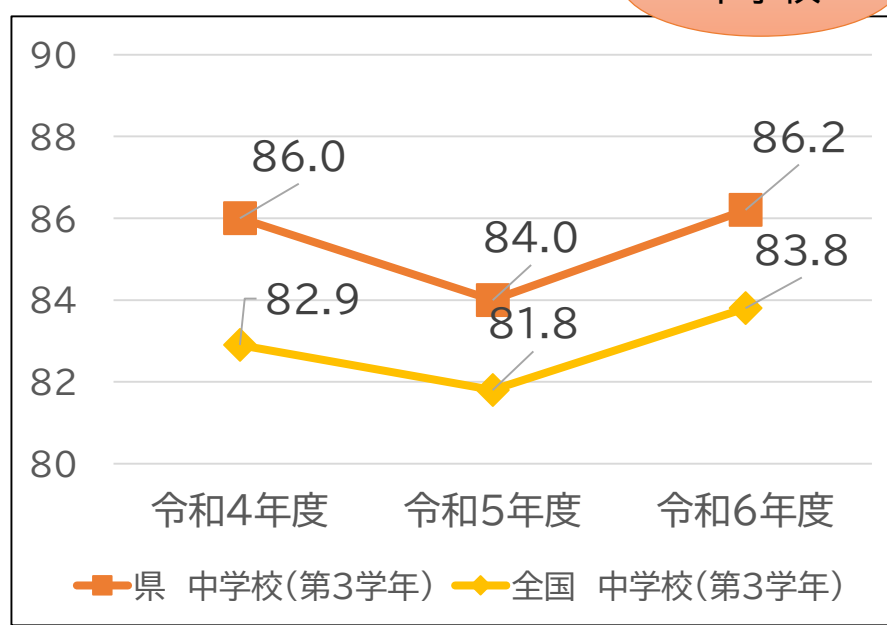
【児童】経年変化

小学校



【生徒】経年変化

中学校



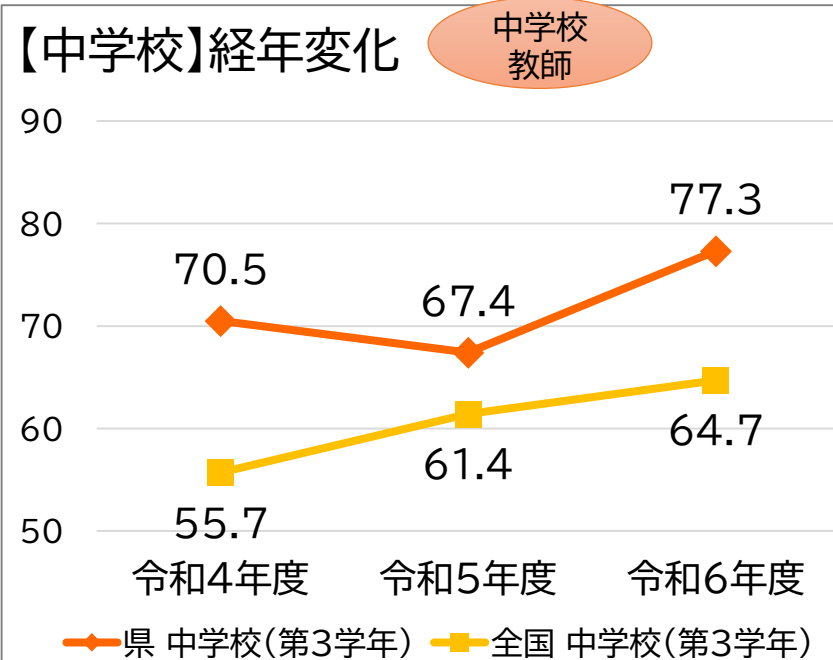
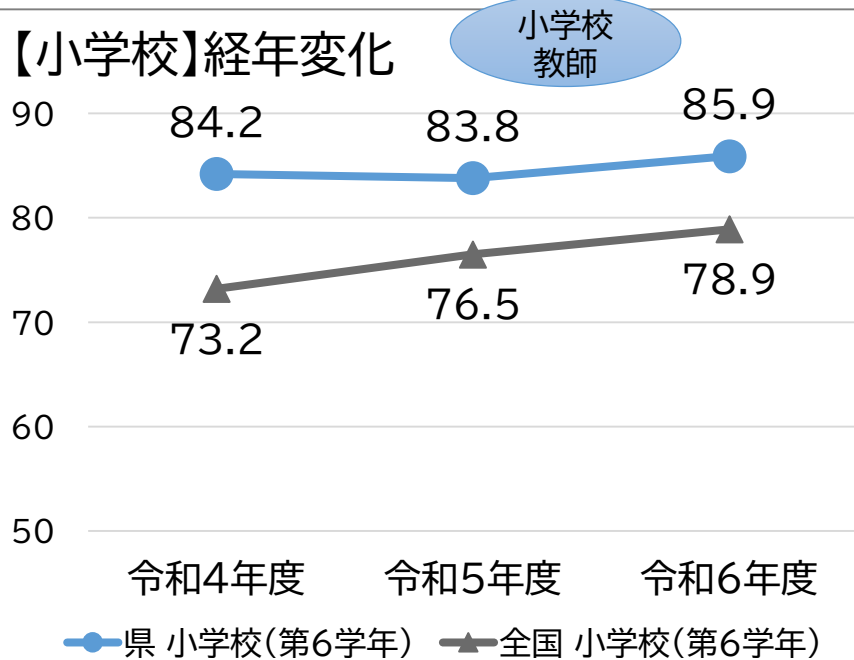
○小中ともに、全国平均を上回っており、本県が全国平均より毎年、約3ポイント高い状況が続いている。

・県の教育行動指標を踏まえた学級づくりから、子供たちにとって概ね安心できる学校生活の場が確保されていることが考えられる。

1－(3) 質問調査の結果（教員の授業力の向上に関するもの①）

校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか。

「週に1回程度、またはそれ以上行った」＋「月に数回程度行った」の割合

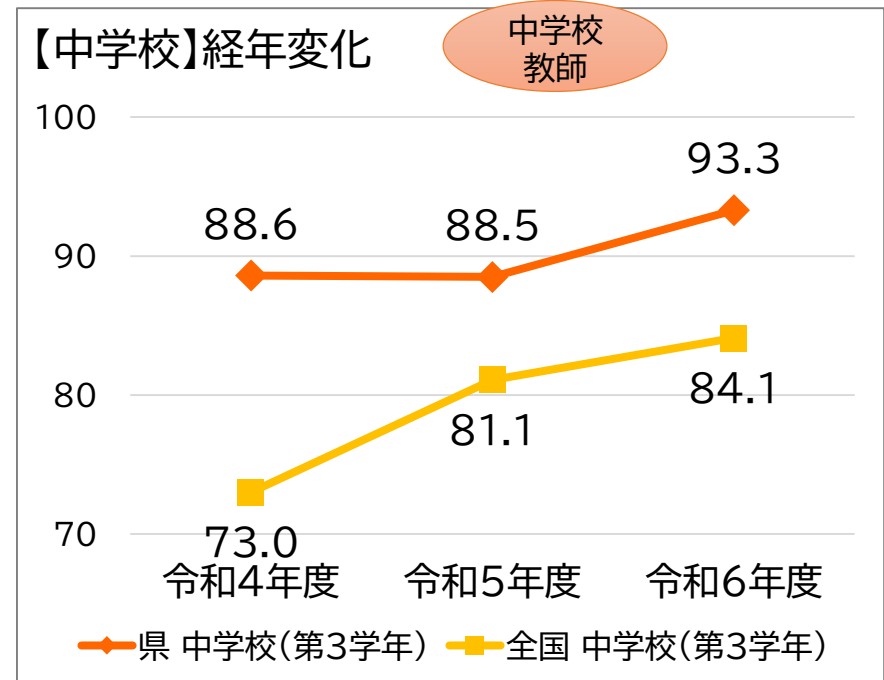
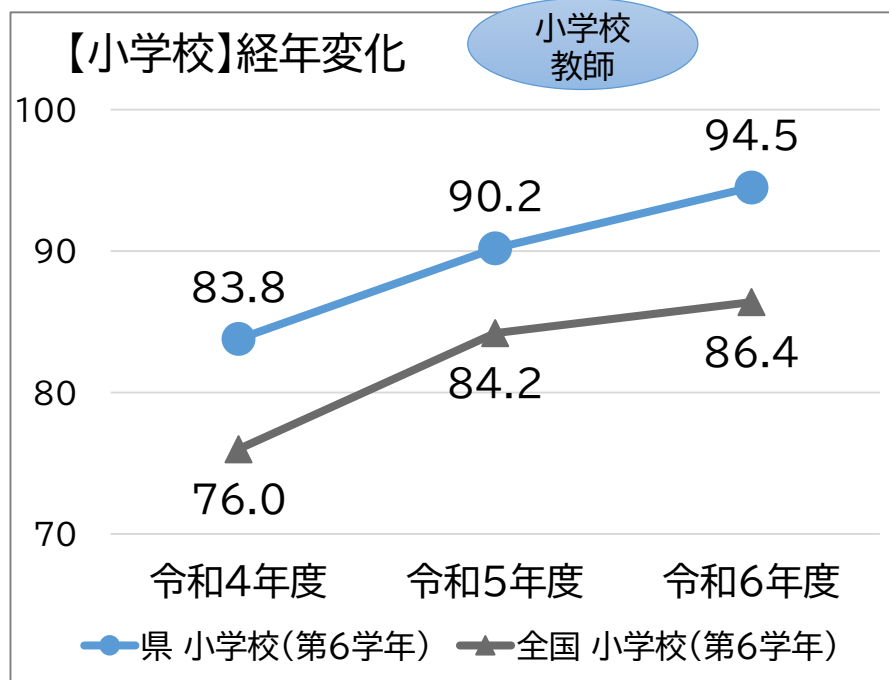


○小中ともに、全国平均より高い傾向が続いており、前回より向上が見られる。

・校長が、教員一人一人の状況を把握し、課題解決に向けた取組が行われている。

1－(3) 質問調査の結果（教員の授業力の向上に関係するもの②）

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか。（オンラインでの参加含む） 「よくしている」＋「どちらかといえば、している」の割合



○小中ともに、全国平均より高い傾向が続いており、前回より向上が見られる。

・一人一人の教員が研究会等に参加する学校が多いことから、授業力の向上に対する意識の高さが考えられる。

1－（４） 成果と課題

◇成果

- 「先生はよいところ認めてくれる」「学校に行くのは楽しい」と感じている児童生徒の割合が多い。
- 「授業で、自分で考え、自分から取り組んでいる」や「授業が分かる」と感じている児童生徒の割合が増加している。
- 校長が率先して授業について話し合ったり、教員が専門性向上のために研究会等に参加したりしている割合が高い。

◇課題

- △学びの主体性に関する項目は、全国平均を下回っており、児童生徒の認識と教員の捉えに差がある。
- △「よく分かる」と回答した児童生徒の割合が、小学校国語を除いて、全国平均より低い。
- △正答率約7割以上が少なく、正答率3割以下が多い。

※別紙「教科の結果分析と課題の改善に向けて」を参照

2 今後の取組について

2 今後の取組について

次の検証(県学調)における重点指標

誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、
児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

重点 指標1

授業では、課題の解決に向けて、
自分で考え、自分から取り組んで
いましたか。

重点 指標2

自分の考えを発表する機会、
自分の考えがうまく伝わるよう、資
料や文章、話の組立てなどを工
夫して発表していましたか。

重点 指標3

授業の内容はよく分かりますか。
(各教科において)

指標の
向上を
目指す

学力の
向上

※各学校の実態に応じて、指標を設定し、取り組む

2 今後の取組について

県教育委員会の課題の改善に向けた取組

⇒ 授業力の向上に向けて

誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、
児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

授業の質の向上

○「熊本の学び」プロジェクト校による公開授業の実施(10月～2月)【R6新規】

- ・子供を学びの主体とする授業改善や特色ある実践を各地域に幅広く周知

○オンライン研修の充実

- ・「全学調等の問題から考える授業実践」として研修を実施(第3回, 10月「熊本の学び」わくわくサークル) 国, 社, 数, 理, 英
- ・全学調を基にした授業づくりのオンライン研修(国, 算・数, 英)【R6新規】

○課題克服に向けた参考資料の提供

- ・全学調の結果を基に作成する教科の結果分析資料【R6見直し】

○「くまナビ評価問題」の提供

- ・全学調を踏まえ、児童生徒を学びの主体とする授業改善につながる問題の開発
※【R5～】小中国, 算・数, 中英, 【R6新規】小外, 中社, 中理

研修等の質の向上

○校内研修で活用できる資料の提供

- ・参加者主体の授業研究会に関する資料【R6新規】
- ・児童生徒を学びの主体とする授業づくりにつながる資料【R6新規】

2 今後の取組について

各学校の課題の改善に向けた重点取組

教員が授業を中心に行うこと

○児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定(①,②)とその内容の充実

①単元の中で、自分で考えたり、取り組んだりする学習活動を確実に設定する。

⇒重点指標1

②単元の中で、自分の考えを工夫して発表する学習活動を確実に設定する。

⇒重点指標2

○児童生徒が「分かった」と実感できる授業の充実

・全学調の結果から、課題が見られる問題は、その克服を図る。⇒重点指標3

・児童生徒の定着状況を確認し、定着のための手立てを確実に行う。⇒重点指標3

学校総体で行うこと

○教員が主体となる校内研修等の内容の充実 ※本課から資料提供予定

・自分自身の授業などの教育実践を振り返り、今後の改善や実践につながる気付きを得られる校内研修や授業研究会を行う。⇒重点指標1, 2

○全学調の結果分析及び改善に向けた取組 ※本課から資料提供予定

・課題のある問題の解答状況の把握し、課題改善の取組を確実に行う。⇒重点指標3

・質問調査結果を分析し、課題については、学習状況の改善の取組を確実に行う。

管理職が行うこと

○授業の質の向上につながる助言内容の充実

・日常の授業参観を通して、授業力の向上につながる具体的な助言を行う。

⇒重点指標1, 2, 3

課題の改善に向けた重点指標及び取組

【次の検証(R6県学調・R7全学調)へ向けて、各学校で重点的に取り組むこと】

重点指標

〔R6熊本県学力・学習状況調査及びR7全国学力・学習状況調査において検証〕

【重点指標1】児童生徒質問
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【重点指標2】児童生徒質問
自分の考えを発表する機会が、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

【重点指標3】児童生徒質問
授業の内容はよく分かりますか。
(各教科において)

※各学校の実態に応じて、指標を設定し、取り組み、向上を目指す。

学力の向上

重点取組

教員が授業を中心に行うこと

○児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定(①、②)とその内容の充実

①単元の中で、自分で考えたり、取り組んだりする学習活動を確実に設定する。
⇒**重点指標1**

②単元の中で、自分の考えを工夫して発表する学習活動を確実に設定する。
⇒**重点指標2**

○児童生徒が「分かった」と実感できる授業の充実

・全学調の結果から、課題が見られる問題は、その克服を図る。⇒**重点指標3**

・児童生徒の定着状況を確認し、定着のための手立てを確実に行う。⇒**重点指標3**

学校総体で行うこと

○教員が主体となる校内研修等の内容の充実 (※本課から資料提供予定)

・自分自身の授業などの教育実践を振り返り、今後の改善や実践につながる気付きを得られる校内研修や授業研究会を行う。⇒**重点指標1、2**

○全学調の結果分析及び改善に向けた取組 (※本課から資料提供予定)

・課題のある問題の解答状況を把握し、課題改善の取組を確実に行う。⇒**重点指標3**

・質問調査結果を分析し、課題については、学習状況の改善の取組を確実に行う。

管理職が行うこと

○授業の質の向上につながる助言内容の充実

・日常の授業参観を通して、授業力の向上につながる具体的な助言を行う。
⇒**重点指標1、2、3**

目標：誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

別紙1

例えば、授業の発表場面で文章構成、資料提示など工夫して説明させる。聞き手は、発表について共感したことや感想等を伝える。

私は〇〇と考えます。その根拠は資料1です。

明子さんの意見に共感しました。なぜなら…。

例えば、校内研修で参加者同士の自己開示や対話、フィードバックなどの意見交流を通して、一人一人が新たな気付きを得られる工夫を行う。

私は、A先生の課題解決のアイデアを、やってみようと思いました。なぜなら…。

例えば、管理職の助言で子供の理解度に応じた指導や授業展開等、具体的な助言や支援を行う。

導入の場面での発問の意図は何でしたか。発問を「◇◇◇」にしてみると、つまづいている児童も…。

【課題の改善に向けた今後のスケジュール(例)】★各学校で、必ず取り組むもの(時期は各学校で設定)

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
結果分析及取組の共有 →校内研修(県HP掲載「校内研修シート」の活用等)、各教科の分析、学校・学級づくりの分析	重点指標を向上させるために →校内研修や授業研究会等を通じて授業力の向上の取組		★課題改善重点期間 →重点取組(上記)の確実な実践 課題である問題の克服・学習状況の改善 →授業での確実な確認、学校生活での実践	県学調実施 ※重点指標の向上 →実施後、課題の見られる問題については即座に対応	結果分析及考察 →同一集団の「伸び(変容)」や指標の達成状況の確認、結果分析を踏まえた重点取組の改善と確実な実践 ※個人票と課題に応じた学習プリントの活用	★課題改善重点期間 →重点取組の確実な実践(フォローアッププリントの活用、前年度までの全学調の課題改善状況の確認) →児童生徒自らの課題分析、課題克服のための取組の推進	全学調実施 ※重点指標の向上	

熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

29

本校の重点取組

本校の目標：

(活用シート)

重点指標

本校の目標：子供たち誰一人取り残すことなく、学びを保障するために、児童生徒を学びの主体とする授業を目指す。

【重点指標1】児童生徒質問

学校：肯定値(全国差)

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

県・小学校：79.0%(全国差-2.9)、中学校：74.8%(全国差-5.5)

学校の現状 R6全学調結果 ()

R5県学調結果()→ R6県学調結果()

【重点指標2】児童生徒質問

学校：肯定値(全国差)

自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

県・小学校：60.6%(全国差-7.0)、中学校：53.6%(全国差-11.2)

学校の現状 R6全学調結果 ()

R5県学調結果()→ R6県学調結果()

【重点指標3】児童生徒質問

教科：肯定値(全国差)

授業の内容はよく分かりますか。(各教科において)

県・小学校：国語：87.1%(+0.8)、算数81.5%(-0.6)

県・中学校：国語：81.6%(-1.1)、数学70.3%(-5.4)

学校の現状：R6全学調(国 ()、(算・数 ())

R5県学調結果 (国 ()、(算・数 ())

R6県学調結果 (国 ()、(算・数 ())

【学校で設定した重点指標】児童生徒質問

県： % 全国： %

学校の現状 R6全学調結果 ()

R5県学調結果()→ R6県学調結果()

重点取組

課題改善重点期間(月 日 ~ 月 日)

授業や学校総体で行うことについて

別紙「課題の改善に向けた重点指標及び取組」を参考に、それぞれについて、取組を記入しましょう。

○「児童生徒が学びの主体となる学習活動の設定と内容の充実」に向けた取組

<「学習活動の設定」に向けた取組>

<「内容の充実」に向けた取組>

○「児童生徒が『分かった』と実感できる授業の充実」に向けた取組

<「課題が見られる問題への克服」に向けた取組>

<「定着のための手立て」に向けた取組>

○全学調の結果分析及び改善に向けた取組

<結果を基に実態把握・分析>

<目標及び取組の立案>

<プランの実行>

完了時期()

完了時期()

実行期間()

○学校で設定した重点指標について

<具体的取組>

指標の向上を目指す

学力の向上

熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

30

参考資料「児童生徒に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの合計を示す。 単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
慣 生 基 等 活 本 習 的	朝食を毎日食べていますか	93.8	93.7	+0.1	93.0	91.2	+1.8
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.7	91.6	+0.1	93.7	92.5	+1.2
自己規範、挑戦心、達成感、有用感等	自分には、よいところがあると思いますか	82.3	84.1	-1.8	83.1	83.3	-0.2
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.7	89.9	-0.2	91.0	90.4	+0.6
	将来の夢や目標をもっていますか	83.0	82.4	+0.6	66.8	66.3	+0.5
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.8	96.7	+0.1	96.6	95.7	+0.9
	学校に行くのは楽しいと思いますか	86.7	84.8	+1.9	86.2	83.8	+2.4
学習習慣、学習環境等	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	77.9	80.7	-2.8	73.7	78.6	-4.9
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）（「1時間以上」の割合）	48.6	54.6	-6.0	58.9	64.3	-5.4
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）（「1時間以上」の割合）	46.6	48.6	-2.0	63.0	63.0	0.0

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

参考資料「児童生徒に対する調査」の主な結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの合計を示す。 単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
C T の 活 動 の 活 用 状 況 、 I わ	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.1	83.5	-0.4	76.2	76.1	+0.1
	前学年までの学習の中で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	63.4	59.5	+3.9	67.2	64.4	+2.8
	前学年までの学習の中で、P C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	85.5	85.5	0.0	82.0	80.2	+1.8
授 業 主 体 的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び の 時 間 の 視 点 か ら の	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	60.6	67.6	-7.0	53.6	64.8	-11.2
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.0	81.9	-2.9	74.8	80.3	-5.5
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	84.8	86.3	-1.5	84.6	86.1	-1.5
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.0	80.8	-0.8	75.2	77.9	-2.7
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	89.0	87.9	+1.1	85.1	84.9	+0.2
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	80.7	81.3	-0.6	81.6	82.2	-0.6
	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	89.4	88.2	+1.2	92.6	91.7	+0.9
理 教 科 の 解 度 の	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.1	86.3	+0.8	81.6	82.7	-1.1
	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	81.5	82.1	-0.6	70.3	75.7	-5.4
	英語の授業の内容はよく分かりますか	79.4	78.3	+1.1			

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

参考資料「学校に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの合計を示す。 単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
導 生 等 徒 指 指	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	85.9	85.5	+0.4	95.1	93.8	+1.3
	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか	94.2	90.6	+3.6	98.2	95.0	+3.2
質 学 向 校 上 運 に 営、 関 教 する 職 状 員 況 の 資	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（「週に1回程度、またはそれ以上行った」＋「月に数回程度行った」）	85.9	78.9	+7.0	77.3	64.7	+12.6
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	99.1	97.0	+2.1	97.5	96.5	+1.0
	児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	94.5	90.0	+4.5	93.3	85.7	+7.6
	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加含む）	94.5	86.4	+8.1	93.3	84.1	+9.2
状 主 況 か の 体 ・ 的 授 対 業 話 改 的 善 改 に 善 関 化 する 学 る び 組 の 取 視 組 視	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	89.6	88.2	+1.4	89.5	88.4	+1.2
	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	81.0	78.3	+2.7	82.8	82.7	+0.1
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	93.2	90.3	+2.9	94.5	86.3	+8.2
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	94.8	89.3	+5.5	87.1	85.1	+2.0

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出

参考資料「学校に対する調査」の主な結果②

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの合計を示す。 単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
価 学 習 評	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	89.3	87.1	+2.2	95.1	91.2	+3.9
学 習 状 況 I C T を 活 用 し た	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」＋「週3回以上」の割合）	77.1	76.6	+0.5	67.5	70.4	-2.9
	調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」＋「週3回以上」の割合）	47.4	45.0	+2.4	35.0	41.1	-6.1
小 中 連 携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	76.8	64.0	+12.8	81.6	69.0	+12.6
家 庭 学 習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	98.5	96.1	+2.4	93.9	91.9	+2.0
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか	94.1	87.8	+6.3	88.3	82.8	+5.5
活 用 全 学 調 の 結 果 の	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.6	96.8	+0.8	94.5	94.1	+0.4
	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか	98.1	92.8	+5.3	94.5	89.3	+5.2

※国の報告書をもとに、第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン及び「熊本の学び推進プラン」等に関連する項目の中から抽出